歴史文化都市委員会本町通ガイド

令和６年３月
歴史文化都市委員会

本町通は名古屋城と熱田をむすぶ　大手筋

本町通のはじまり

慶長15年（1610）、徳川家康の命によって名古屋城の築城が始まりました。

東海道の宮宿が設置されたことで、熱田は熱田神宮の参拝者で賑わい、京・江戸に向かう旅人の旅籠（宿泊施設）が立ち並ぶ娯楽地となりました。

同じ時期、熱田と名古屋城を南北に結ぶ基幹道路として建設されたのが「本町通」です。美濃路（東海道・宮宿と中山道・垂井宿を結ぶ街道）の一部を併用する形で整備され、名古屋城下の中心街として発展しました。

現在の伝馬町本町交差点で美濃路と本町通は分岐し、美濃路は伝馬町筋を西に清須へ向かい、本町通は北上し名古屋城へと通じます。現在の伝馬町本町交差点あたりは「札の辻」と呼ばれ名古屋宿の中心となっていました。

高札場や荷物の運搬に必要な人馬を継ぎ立てる伝馬会所が設けられました。

本町通を舞台に繰り広げられた 名古屋三大祭

名古屋三大祭

江戸時代の名古屋では、名古屋三大祭と謳われた「東照宮祭」「三之丸天王祭」「若宮祭」が行われていました。これらの祭は身分を超えて参加・見物できるものであり、華やかなからくり山車などで構成された祭礼行列が名古屋城と本町通を中心に行われる、城下で最も賑わう行事でした。

現在祭で曳かれている山車

唐子車（からこしゃ）

大将、唐子２体、采振り人形が乗っています。唐子（中国風の衣装を着た童子）が倒立しながら太鼓を打つ演技をします。

※10月の花車神明社祭で曳き出されます

二福神車（にふくじんしゃ）

恵比寿と大黒の二福神、采振り人形（前棚で采（ざい）や御幣を振る人形）が乗っています。宝袋の中から宝船が出てくるおめでたいからくりを披露します。

※10月の花車神明社祭で曳き出されます

福禄寿車（ふくろくじゅしゃ）

大将の福禄寿と唐子２体、幣振り人形が多彩な動きを見せてくれます。福禄寿は南極星の神様とされており、あちこちに星座が描かれています。

※5月の若宮祭で曳き出されます

紅葉狩車（もみじかりしゃ）

大将の平維茂、更科姫、従者、采振り人形が乗っています。能の「紅葉狩」を題材にしたからくり演技を披露します。

※10月の花車神明社祭で曳き出されます

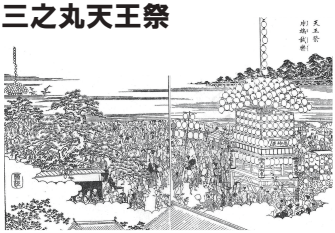
尾張年中行事絵抄

東照宮祭・若宮祭では、地域ごとに山車が出されました。

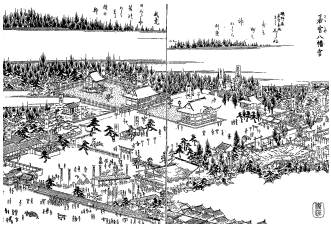
東照宮祭
若宮祭

東照宮祭

三之丸天王祭



若宮祭



作成：歴史文化都市委員会　織田アドバイザー

出典：尾張名所図会

名古屋を支えた経済軸

名古屋城下の本町通

熱田から名古屋城にいたる本町通は主だった商家が競って店を構えました。そのなかでも碁盤割の中を走る本町通は名古屋城下の中心街として栄えます。

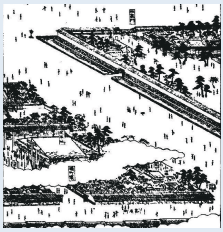
本町橋の南には、かつて、町奉行所がおかれましたが、近代に入ると仮病院、仮医学校が建てられ、西洋医術を施す病院がありました。戦前には憲兵隊の本部として利用され、戦後、産業貿易館が完成することとなります。このように、本町通は、近世から近代にかけた名古屋の歴史の移り変わりの中でも重要な通りであったことがうかがえます。

また、明治四十三年（１９１０）、栄町に進出するまで松坂屋の前身である「いとう呉服店」や茶屋家など、名古屋を代表する豪商が商売を始めており、本町通は、名古屋の商業の礎を築いた道であり、名古屋の商業を繁栄させた道とも言えます。

本町通の歴史年表

1611・いとう呉服店（後の松坂屋）が本町通で創業
1618・名古屋三大祭りの一つ東照宮祭のはじまり
1623・十一屋呉服店（後の丸栄）が本町通で創業
1665・芝居小屋の公認／設置（本町通南端 橘町）
1669・岡谷鋼機が本町筋鉄砲町に「笹屋」として開店
1707・江戸の越後屋（後の三越）が本町通へ進出
1730・徳川宗春の治世により、橘町一帯が娯楽、遊興の地として賑わう
1733・京都の大丸屋（後の下むら呉服店）が本町通へ進出
1876・愛知師範学校の設置（旧産業貿易館本館）
1877・堀川東岸の天王崎町に医学校舎を建設
1897・中村呉服店（後のオリエンタル中村）が広小路本町角に出店
1910・いとう呉服店（後の松坂屋）が栄町に百貨店として移転
1915・十一屋呉服店（後の丸栄）が栄町に百貨店として移転

広小路の様子



いとう呉服店

出典：尾張名所図会

本町通の産業と企業立地

本町通には、前述のとおり熱田から名古屋城にいたる名古屋を代表する基幹街道であったことから主だった商家が競って店を構えていました。その中には、現在でも名古屋を代表する老舗も多く立地しています。

寛文9年（1669）には、鉄砲町にて金物商「笹屋」（現、岡谷鋼機）が創業。創業者岡谷總助宗治氏は、松坂屋伊藤家と共に名古屋商工会議所の会頭をはじめ、公益社団法人名古屋中法人会会長、若宮八幡社総代会長など多くの要職を務め名古屋のリーダーとして名古屋財界をけん引されてきました。

尾張名古屋を支えた本町通は経済軸として、明治、大正、昭和の時代変遷のなかでも、新たな店舗・企業が進出し、現在も名古屋を代表する老舗が多く存在します。

特に繊維産業の発展に伴い、八木文株式会社や、組紐類の販売からスタートした「株式会社青山」（文久2年（1862）創業）や靴問屋として海外輸入や製造などを手掛けるマドラス株式会社（大正10年（1921）創業）などは、繊維・卸等の代表的な企業です。また、牛肉・スギモト（明治33年（1900）創業）や名古屋城再建時の名古屋城の金シャチの地金を納入した貴金属の老舗の「蝶屋」株式会社池田商店（明治19年（1886）創業）など、多様な老舗が現在でも活躍する通りでもあります。

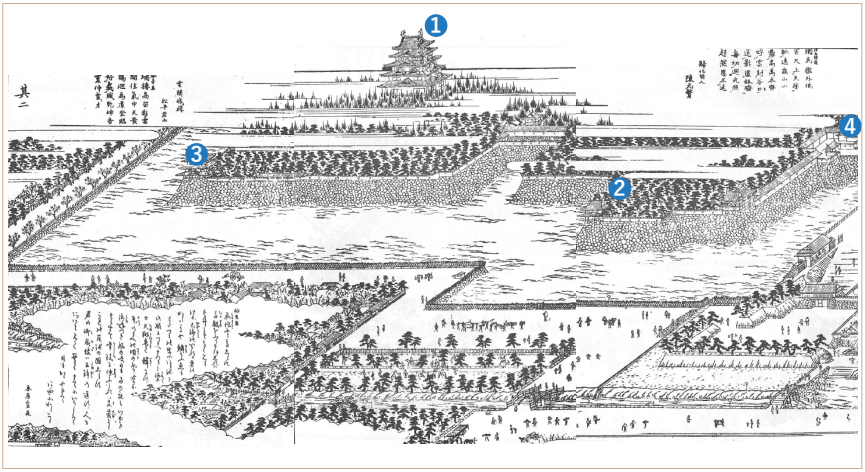
岡谷鋼機株式会社　本社

マドラス株式会社

株式会社青山

宝石・貴金属池田商店

名古屋城と三之丸



❶ 名古屋城天守閣　❷ 名古屋城西南隅櫓　❸ 名古屋城西北隅櫓　❹ 名古屋城正門

❹ 名古屋城正門　明治 43 年（1910）、旧江戸城蓮池御門を移築し国宝に指定されていたが、戦災で焼失した。両脇櫓台の石垣を残すのみだったが、昭和 34 年、天守閣と共に鉄筋コンクリート造りで原形どおり再建された。

❺ 本丸御殿　本丸御殿は、尾張藩主の住居かつ藩の政庁として慶長 20 年 (1615) に完成。絢爛豪華な障壁画や飾金具などが飾られ、近世城郭御殿の最高傑作と称えられた。昭和 20 年 (1945) の空襲により焼失したが、平成 30 年 (2018) に復元された。

❻ 清正石　本丸東二之門を入った正面には、名古屋城の石垣で最大の巨石がある。この石を清正が運んだという伝承があり「清正石」と呼ばれている。

❶ 名古屋城天守閣

❷ 名古屋城西南隅櫓

❸ 名古屋城西北隅櫓

❹ 名古屋城正門

❺ 本丸御殿

❻ 清正石

❶ 名古屋城天守閣
天守閣は昭和 20 年（1945）5 月 14 日の戦災で焼失したが、昭和 34 年（1959）に鉄筋コンクリート造りで再建された。1 階から 5 階までが展示室となっており、焼失をまぬがれた襖絵などを展示している。

❷ 名古屋城西南隅櫓
名古屋城創建当時の面影を伝える建造物で、重要文化財。外観は 2 層屋根だが、内部は 3 階建てになっている。

❸ 名古屋城西北隅櫓
清洲櫓とも戌亥櫓とも呼ばれ、重要文化財。天守、御殿などがほぼ完成した慶長 19 年 (1614) より 5 年遅れた元和 5 年（1619）、清洲城ゆかりの古材などで建築された。

外堀から高札場（札ノ辻）

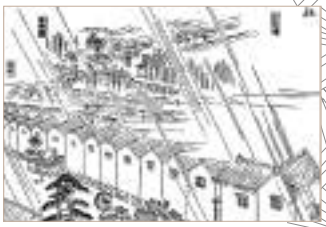
❶ 名古屋東照宮

❷ 那古野神社

❸ いとう呉服店址

❻ 桜天神社

❼ 高札場址


❽ 五条橋

❺ 風月堂書林址　江戸時代における名古屋の代表的な書林。松尾芭蕉が立ち寄ったことでも有名。

❻ 桜天神社　織田信秀が北野天満宮から菅原道真の木像を歓請し、那古野城に設けた祠に奉ったのが始まり。

❼ 高札場址　本町通と伝馬町通交差点に伝馬会所が開設され、正保元 (1644) 年には高札場が設置され、この地点を札の辻と呼んだと言われている。

❽ 五条橋　元は清須を流れる五条川に架かっていたが、家康による「清須越」の際に現在の地に移築。堀川で初めて架けられた橋でもある。

❶ 名古屋東照宮

❷ 那古野神社

❸ いとう呉服店址

❻ 桜天神社

❼ 高札場址

❽ 五条橋

❶ 名古屋東照宮　元和 5(1619) 年、藩祖徳川義直が城内三之丸に造営。

❷ 那古野神社　延喜 11(911) 年創建。那古野合戦で焼失し、天文 8(1539) 年、織田信長の父・信秀により再建。

❸ いとう呉服店址　織田信長の家臣伊藤源左衛門祐道が名古屋の本町で呉服小間物商。

❹ 伊藤銀行址　「いとう呉服店」の当主第 14 代伊藤次郎左衛門によりに設立された名古屋最初の私立銀行。

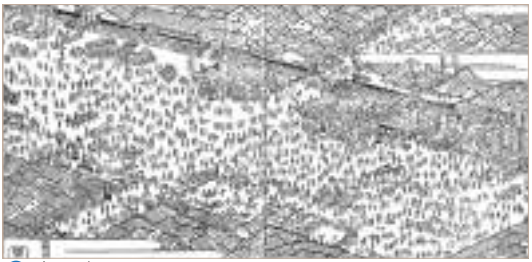
高札場から広小路

❶ 泥江縣神社

❷ 福生院

❸ 医学館址

❹ 朝日神社


❺ 広小路通

❹ 朝日神社　家康の正室である朝日姫（豊臣秀吉の妹）の氏神様。

❺ 広小路通　万治 3 年 (1660) の大火後、防火帯として、道路の拡幅し整備された。

❻ 大惣　江戸時代後期から明治時代にかけて名古屋長島町（現在の錦二丁目）に存在した貸本屋。江戸後期には蔵書数全国一の貸本屋であった。

1 泥江縣神社

2 福生院

3 医学館址

4 朝日神社

5 広小路通

7 三井住友銀行（近代建築）

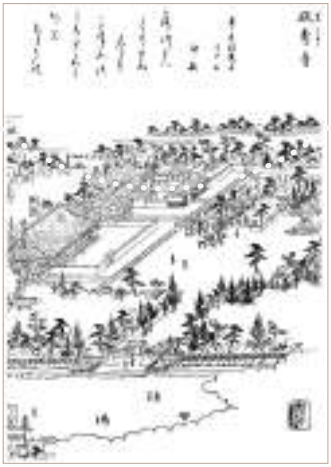
1 泥江縣神社　市内で熱田神宮の次に古い神社、江戸時代には豪華な神輿や武者行列が行われ名古屋名物となっていた。

2 福生院　開山順誉上人が大聖歓喜天を奉るため建立したのが始まり。後に清洲越しに伴い現在地に移転。

3 医学館址　尾張藩医師の総元締であった浅井家が、医者養成のために 18 世紀後半、自邸内に設けた私塾。

広小路から若宮大通

❶ 白林寺



❷ 政秀寺

❸ 若宮八幡宮

❺ 廣井天王社（現 洲崎神社）

❹ 勝鬘寺　もとは清洲にあったが、慶長 17 年 (1612)、名古屋に移り、寛永 9 年 (1632) 現在地へ移った。境内東北角には入母屋造の大屋根の上に同じ造りの重層をあげ、太鼓を備えた鼓楼があり、明治を迎えるまでは太鼓を打って時を知らせていたという。

❺ 廣井天王社（現 洲崎神社）　社伝では貞観年間 (860 頃) の創建で、広井天王社、牛頭 (ごず) 天王社、天王崎神社などとも呼ばれた。古くは、ムク、エノキ、カシ、マツなどが密生した広大な境内だったが、慶長の名古屋城築城のときの堀川開削で狭くなった。

❶ 白林寺

❷ 政秀寺

❸ 若宮八幡宮

❹ 勝鬘寺

❺ 廣井天王社（現 洲崎神社）

❸ 本町通を進む福禄寿車（若宮祭）

❶ 白林寺　寛永 2 年 (1625)、藩祖・徳川義直が重臣・成瀬正成の菩提のため創建したという由緒をもつ。以来、成瀬家の菩提寺として護持されたが、昭和 20 年の戦災で御霊所を除いて焼失した。

❷ 政秀寺　この寺は、天文 22 年 (1553)、信長が政秀の菩提を弔うため、小牧山の南、小木村に建立したもの。慶長 15 年 (1610)、現在地に移る。臨済宗妙心寺派。

❸ 若宮八幡宮　もとは那古野庄の今市場という地 (のちに名古屋城内になる) にあったが、慶長の名古屋城築城のときに現在地へ移された。毎年 5 月 15、16 日には例祭 (若宮祭) が行われる。

❶ 阿弥陀寺

❷ 極楽寺

❸ 大光院

❹ 大須観音

❺ 総見寺

❻ 稲園山正学院長福寺（七ツ寺）

❹ 大須観音　正式には北野山真福寺宝生院だが、大須観音の名で知られる。美濃の大須にあったものが慶長17年(1612)に家康により当地に移された。本堂は戦災焼失したが、昭和45年(1970)に再建。

❺ 総見寺　織田信雄が父・信長を弔うため、天正 13 年 (1585) に伊勢国大島村 (現在の三重県桑名郡長島町) にあった安国寺を清洲に移し、信長の法号にちなんで總見寺と改めた。

❻ 七ツ寺　天平 7 年 (735)、行基が創建した正覚院が起源と伝えられている。天正 19 年 (1591) に清洲へ、さらに慶長 16 年 (1611) には清洲越しで現在地に移された。

❶ 阿弥陀寺

❷ 極楽寺

❸ 大光院

❹ 大須観音

❺ 総見寺

❻ 稲園山正学院長福寺（七ツ寺）

❶ 阿弥陀寺 天文年中 (1532 ～ 1554) に建立。浄土宗知恩院の末寺。元は清須にあったが、いわゆる清洲越しの際に現在地に移った。

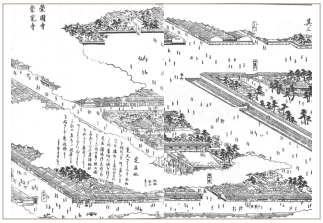
❷ 極楽寺 葉栗郡極楽寺村に在り法然上人も居住せられたという。天文元年（1532)、木曽川洪水により流失後、慶長 9 年（1604）空朔教意上人が、清洲に再建し、同 15 年、教意上人が現地に移した。

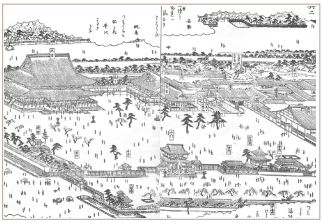
❸ 大光院 曹洞宗の寺院で慶長 15 年 (1610)、清洲から移された。赤門、明王さんとして知られる寺院。境内・明王殿にまつる烏瑟沙摩明王 (うすさまみょうおう) は一切のけがれや悪を浄めるといわれ、特に女性の病気にご利益があるという。

❶ 西本願寺名古屋別院

❷ 日置八幡社（日置神社）

❸ 長栄寺


❹ 栄国寺


❺ 東本願寺別院

❻ 東輪寺

❹ 栄国寺　尾張藩の刑場であった。刑死者の中にはキリシタンも多く含まれていた。尾張藩２代藩主徳川光友公は，刑場を現清須市から移し、それまでの刑死者の菩提を弔うために建立された。

❺ 東本願寺別院　真宗大谷派の別院。織田信秀の居城古渡城の跡地に元禄３年（1690）に建立され、古くから「御坊さん（ごぼうさん）」と呼ばれている。

❻ 東輪寺　延宝２年（1674）に尾張二代藩主徳川光友公によって、名古屋の裏鬼門を守護するため、高僧・即非如一禅師を勧請し創建された禅宗の一派黄檗宗の寺院。

❶ 西本願寺名古屋別院

❷ 日置八幡社（日置神社）

❸ 長栄寺

❹ 栄国寺

❺ 東本願寺別院

❻ 東輪寺

❶ 西本願寺名古屋別院
慶長 15 年（1610）の清洲越の際に現在地へ移り名古屋願證寺と改称。享保 3 年（1718）には、本願寺第十四代宗主寂如上人によって西本願寺の坊舎となり、名古屋御坊と称される。

❷ 日置八幡宮（日置神社）
桶狭間の戦い時、信長が戦勝祈願し敦盛を舞ったとされる。勝利のお礼に千本の松を寄進した事から「千本松日置八幡宮」とも言われている。

❸ 長栄寺
明叟周見大和尚が開山して金剛山長栄寺と改め、天和 3 年（1683）に尾張藩 2 代藩主・徳川光友公の命で現在の地へ移ったと言われている。

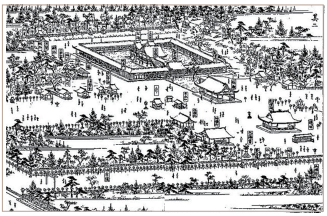
金山から熱田

金山駅
金山神社
1
2
3
高蔵御子神社
旗屋小学校
西高蔵
中央卸売市場
堀川
新堀川
名古屋電鉄（瑞穂線）
国際会議場
熱田公園
名古屋学院大学
熱田神宮西
白鳥古墳
熱田神宮
4
白鳥庭園
堀川クルーズルート
大瀬古公園
熱田神宮伝馬町
東海道
七里の渡し
5

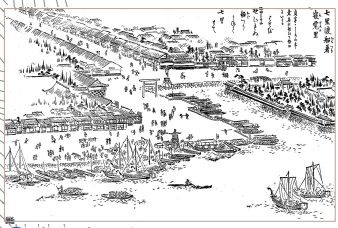
❶ 一（いち）の鳥居跡

❷ 夜寒（よさむ）の里

❸ 旗屋町



❹ 熱田神宮



❺ 宮の渡し跡

❶ 一（いち）の鳥居跡

❷ 夜寒（よさむ）の里

❸ 旗屋小学校武家屋敷門

❹ 熱田神宮

❺ 宮の渡し跡

❶ 一の鳥居跡　熱田神宮の北の入口を示す朱塗りの大鳥居が建っていた。

❷ 夜寒の里　その昔閑静で眺望のよい別荘地とされた。古地誌『厚覧草（あつみぐさ）』に夜寒の里と記されている。碑は歌人磯部芦丸（号千舟）が自宅地内に建てたもの。

❸ 旗屋小学校武家屋敷門　武家屋敷の長屋門の趣から武家屋敷門と呼ばれてきた門は、入学式と卒業式の際にのみ開門する。学校や地域のシンボルとして大切にされている。

❹ 熱田神宮　三種の神器の一つ草薙神剣を祀ったのが神宮の起源で、社が鎮座されたのは景行天皇の末年頃とされる。古くから「熱田さん」と呼ばれ、6月5日の熱田まつりで親しまれている。

❺ 宮の渡し跡　東海道のうち宮・桑名間は唯一の海上路で宮の渡しは、尾張藩の海の玄関として栄えた。現在では「宮の渡し公園」として整備、常夜灯、時の鐘の鐘楼が復元されている。

「歴史文化都市委員会本町通ガイド」

発　行：令和6年5月　発行
発行者：名古屋都市再開発促進協議会
歴史文化都市委員会

名古屋都市再開発促進協議会